

平成 24 年 11 月 25 日 (日) 施行

第 169 回 全経簿記能力検定試験 3 級 商業簿記 解説

第 1 問

1. 小切手の振り出しは当座預金 (資産) を減少させる。

(借) 仕入 (費用) の発生 (貸) 当座預金 (資産) の減少

2. 店主個人の生命保険料なので、保険料 (費用) として処理することはできない。よって店主の私用である引出金 (純資産をマイナスする勘定) として処理する。

(借) 引出金 (純資産をマイナス) (貸) 現金 (資産) の減少

3. 小切手の受け取りは現金 (資産) の増加として処理する。

(借) 現金 (資産) の増加 (貸) 売上 (収益) の発生
受取手形 (資産) の増加

4. (借) 買掛金 (負債) の増加 (貸) 支払手形 (負債) の増加

5. 割引料 ¥7,000 は額面額未満で銀行に売却したことによる売却損 (費用) として処理する。

(借) 当座預金 (資産) の増加 (貸) 受取手形 (資産) の減少
手形売却損 (費用) の発生

6. 給料総額から所得税などの源泉徴収分を預り金 (負債) として差し引いて支払う。

(借) 給料 (費用) の発生 (貸) 現金 (資産) の減少
従業員預り金 (負債) の増加

7. 商品の引渡しは終わっていないので、売上ではなく前受金 (負債) である。

(借) 当座預金 (資産) の増加 (貸) 前受金 (負債) の増加

第 2 問

1. 売上原価と売上総利益

仕 入		損益計算書	
期首商品 350,000	売上原価 (ア)	売上原価 (ア)	純売上高 11,300,000
純仕入高 7,500,000	期末商品 470,000	売上総利益 (イ)	

- (ア) **売上原価 = 期首商品棚卸高 + 当期純仕入高 - 期末商品棚卸高** の関係より

$$\text{売上原価} = \text{¥}350,000 + \text{¥}7,500,000 - \text{¥}470,000 = \underline{\text{¥}7,380,000}$$

- (イ) **純売上高 - 売上原価 = 売上総利益** の関係より

$$\text{売上総利益} = \text{¥}11,300,000 - \text{¥}7,380,000 = \underline{\text{¥}3,920,000}$$

2. 期首・期末の純資産と当期純利益

期首貸借対照表		損益計算書		期末貸借対照表		
資 産 (ウ)	負 債 4,800,000	費 用 6,100,000	収 益 6,800,000	資 産	負 債	期末純資産 6,000,000
	期首純資産				期首純資産	
		当期純利益 (エ)			当期純利益 (エ)	

(エ) **収益－費用＝当期純利益** の関係より

$$\text{当期純利益} = \text{¥}6,800,000 - \text{¥}6,100,000 = \text{¥}700,000$$

また、損益取引以外の取引（資本金の増減等）により生じた純資産の変動はないので、

期末純資産＝期首純資産＋当期純利益 の関係より

$$\text{期首純資産} = \text{期末純資産} - \text{当期純利益} = \text{¥}6,000,000 - \text{¥}700,000 = \text{¥}5,300,000$$

(ウ) **期首資産＝期首負債＋期首純資産** の関係より

$$\text{期首資産} = \text{¥}4,800,000 + \text{¥}5,300,000 = \text{¥}10,100,000$$

第3問 省略

第4問

9月3日 石巻商店への売上

(借) 売 掛 金	800,000	(貸) 売 上	800,000
⇒得意先元帳		⇒売上帳	

9月10日 石巻商店に対する売掛金の回収（約束手形）

(借) 受 取 手 形	300,000	(貸) 売 掛 金	300,000
⇒受取手形記入帳		⇒得意先元帳	

約束手形（振出人・支払人：石巻商店 期日1月10日）

9月29日 石巻商店に対する売掛金の回収（小切手）

(借) 現 金	550,000	(貸) 売 掛 金	550,000
⇒得意先元帳			

第5問

決算整理事項

1. 売上原価の計算

期首商品棚卸高は残高試算表より¥330,000

(借) 仕 入	330,000	(貸) 繰 越 商 品	330,000
繰 越 商 品	420,000	仕 入	420,000

2. 貸倒引当金の計上

売掛金の期末残高は¥3,000,000

$$\text{¥}3,000,000 \times 1.2\% = \text{¥}36,000$$

差額補充法で処理するので繰入額は¥36,000－¥25,000＝¥11,000

(借) 貸倒引当金繰入	11,000	(貸) 貸 倒 引 当 金	11,000
-------------	--------	---------------	--------

3. 減価償却費の計算

備品の取得価額は¥3,000,000、耐用年数5年、残存価額はゼロなので、年間の減価償却費は、

$$\text{¥}3,000,000 \div 5 \text{年} = \text{¥}600,000$$

直接法なので、備品から直接控除する。

(借) 減 価 償 却 費	600,000	(貸) 備 品	600,000
---------------	---------	---------	---------

4. 現金過不足の処理

¥2,000を雑益(収益)として処理する。

(借) 現 金 過 不 足	2,000	(貸) 雑 益	2,000
---------------	-------	---------	-------

5. 引出金の処理

引出金の金額¥150,000を資本金から控除する。

(借) 資 本 金	150,000	(貸) 引 出 金	150,000
-----------	---------	-----------	---------